

## がん治療医に求められる科学的思考力

副理事長 野田 哲生



基礎研究者の私が、本機構の副理事長を務めさせて頂いているのは、本機構の立ち上げに際して、日本癌学会が主要な構成メンバーの一つとして加わったことに起因しています。本機構の設立を強く後押しされた日本医学会の高久史麿会長の、基礎分科会の一員である日本癌学会を、本機構に積極的に関与させるのが良いとお考えのもと、日本癌学会が参画することとなり、日

本癌学会理事長であった私も本機構で働かせて頂くこととなりました。爾来、認定試験の基礎医学部分の充実に加えて、いかにして本機構そのものの機能の充実と発展に貢献するかを考えてきました。

がん治療認定医制度は、国内のがん患者さんに提供されるがん医療の質を向上させるためのものであり、本機構の中核を形作っているのは、多くの臨床医学系の学会です。この数年間、日本医学会のあり方に関する議論が続いており、社会における医学系学会の役割に関して議論が交わされる機会も少なくありません。しかし、これらの臨床医学系の諸学会が、社会において「医学の推進」と「医療の充実」という、二つの大きな責務を負っているという理解に関しては異論のないところと思います。実際に、臨床研究者あるいは臨床医の多くは、多かれ少なかれ、これら二つの責務を果たしていると考えられますし、これらの学会は新専門医制度やがん治療認定医制度において、大きな役割を果たすことが求められています。

ただし、この医学と医療の間の距離感に関する認識は、人によって大きく違っているように感じます。端的な表現をすれば、「医学と医療は一体のもの」と考えられる方から、「医学は将来の社会のための活動であり、医療は現在の患者さんのための活動」と、この二つを全く別個のものとして割り切って考えておられる方もいます。がん医療の充実を図るためのがん治療認定医機構に、基礎研究者を中心とした学会を参画させるという、高久先生の慧眼にはまさに感服させられるところですが、本機構の発足当時、基礎医学や橋渡し研究に従事する医学研究者は、がん治療認定医が身につけるべき「標準化がん医療」に関して、若干の距離感を感じていたのも事実です。しかし、近年、がん診断・治療法開発の速度は、一気に加速化しており、がん診療における医学と医療の距離を大き

く近づけることとなっているように思います。そして、我々、基礎研究者にとっても、がん医療が大変に近いものと感じられるようになっていきます。

最近、脚光を浴びている免疫チェックポイント阻害剤に関して考えてみれば、京都大学の本庶佑先生が得た優れた知見に基づいて開発されたお薬であるため、患者さん体内での抗がんメカニズムは既に明確であるように思われがちですが、悪性黒色腫や肺がんへの適応が承認されている現在でも、その効果発現のメカニズムには不明な点も多く、現在も、感受性マーカーによる患者さんの層別化が求められるところです。市販後試験の重要性や在るべき姿については、ここで述べるつもりはありませんが、EBMが叫ばれて久しいものの、がん領域における近年の新薬には、効果と副作用のエビデンスは得られているものの、いまだ抗がん機序の全てが明らかになっていないものも多く、この傾向は今後も強くなると考えられます。そして、この部分こそ、まさに臨床医学と基礎医学が一体となって解明すべき部分であり、医療と医学の緊密な連携が求められるところです。

がん医療は、必ずしも全てのエビデンスが出そろった形で患者さんに提供されるとは限りません。このように日々進歩し続ける医療を患者さんに提供する認定医にとって重要だと思うのは、現在、得られているエビデンスをそのまま正確に把握することだけでなく、それらを評価し判断を下すことが出来る科学的思考力を身につけることではないかと思います。臨床、基礎を問わず、医学においては積み重ねられたエビデンスをもとに、科学的手法を用いて、さらに新たなエビデンスを構築することが求められます。がん治療医に科学的思考力を身につけて貰うべく、がん治療認定医制度を進化させることも、医学の推進を責務とする諸学会が対応すべきところであると思います。

今後の国内のがん医療の質の向上に、いかにがん治療認定医機構が貢献して行くべきかという議論は、新専門医制度によって大きく影響されるところですが、これまでがん治療認定医制度の充実大きく貢献して来た諸学会は、この医学と医療の一体化が進みつつあるがん医療の分野における「科学的思考力を有する医療者」を養成することの重要性を、今後も強く主張すべきであると考えています。

がん治療認定医総数

14,832名

がん治療認定医(歯科口腔外科)総数

383名

2016年4月1日現在

## ▼ 目次

がん治療医に求められる科学的思考力	1
「緩和ケア研修会修了」の必須化について	2
暫定教育医 認定期限延長のお知らせ	2
役員一覧	2
2015年度認定医試験報告および2016年度試験について	3

セミナー見学会開催報告	3
セミナー聴講	3
朝日がん大賞受賞	3
2016年度予定	4
編集後記	4

## 「緩和ケア研修会修了」の 必須化について

資格審査委員会  
委員長 檜山 英三



がん治療認定医は、その資格認定を開始して既に8年が経過し、15,000人を超える医師・歯科医師が認定され、認定医機構がめざしているがん治療の均てん化に少なからず貢献してきました。日本人の二人に一人ががんに罹患して治療を受ける時代となり、緩和ケアの占める意義が拡大する中で、がん対策推進基本計画においては、がん診療に携わるすべての医師が緩和ケア研修を修了することを目標と定めています。そこで、がん治療認定医ががん治療の共通基盤となる臨床腫瘍学の知識およびその実践を支える基本的技術に習熟し、医療倫理に基づいたがん治療を実践する優れた医師および歯科医師であるという点から鑑みて、緩和ケア研修は修了しておくべきと考

え、2016年よりがん治療認定医の新規および更新申請資格要件に加えることといたしました。このことにより、この認定医が、がん診療を実践する医師の資格として多くの国民に受け入れられる確固とした資格となるとともに、本邦のがん診療の均てん化にさらに貢献することが期待されます。

### 2015年度がん治療認定医審査結果

新規合格者数 **961** 名  
更新合格者数 **1,508** 名



2016年度より、がん治療認定医の申請資格要件として新たに「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」(健発第0401016号厚生労働省健康局長通知)に準拠した緩和ケア研修会修了が加わります。

#### 新規申請

申請時に未修了の場合は、申請不可。

※但し、セミナーの受講証明と試験合格の有効期限が2016年度までの場合に限り、猶予します。

#### 更新申請

更新申請時まで修了していること。

※但し、一定の手続きを踏むことで、2019年度末(2020年3月)まで修了期限を猶予します。

- 注1) 詳細は、ホームページに掲載されている『「緩和ケア研修会修了」の必須化について』及び『緩和ケア研修会Q&A』をご覧ください。また緩和ケア研修会は、全国どこでも受講できます。今後の開催日程等につきましては、各都道府県のがん対策担当課にお問合せください。
- 注2) 緩和ケア研修会未修了の場合でも、教育セミナーと認定試験を受けることはできません。
- 注3) 2016年度より、「本機構が認める緩和ケア研修会」の修了は、がん治療認定医の新規申請の際の学術単位になりません。

## 暫定教育医 認定期限の延長のお知らせ

暫定教育医制度は2017年7月31日をもって廃止することにしておりましたが、これにより年度途中で指導責任者が不在となる認定研修施設が発生することを避けるため、2018年3月31日まで延長いたします。

注1) 認定期限延長に伴う手続きはありません。自動的に延長されます。

注2) 認定期限延長に伴う認定証の再発行は致しません。認定期限「2017年7月31日」は、「2018年3月31日」に読み替えてください。

### 役員一覧

- 理事長** 平岡真寛 (日本赤十字社和歌山医療センター)
- 副理事長** 西山正彦 (群馬大学)、野田哲生 (がん研究会がん研究所)
- 理事** 井本滋 (杏林大学)、大江裕一郎 (国立がん研究センター中央病院)、寛善行 (香川大学)、栗田啓 (四国がんセンター)、西田俊朗 (国立がん研究センター東病院)、野々村祝夫 (大阪大学)、馬場秀夫 (熊本大学)、張替秀郎 (東北大学)、檜山英三 (広島大学)、藤原俊義 (岡山大学)、朴成和 (国立がん研究センター中央病院)、宮園浩平 (東京大学)、森正樹 (大阪大学)、八重樫伸生 (東北大学)
- 監事** 伊東文生 (聖マリアンナ医科大学)、落合淳志 (国立がん研究センター東病院)

## 2015年度認定医試験報告および 2016年度試験について

教育委員会  
委員長 筧 善行



2015年11月8日に10回目のがん治療認定医試験が実施されました。認定医試験は2007年度に2回、以降毎年1回行われてきました。合格ラインは正答率を過去10回全て70%としています。今回の試験結果は、平均点：42.9点（医師のみ：43.2点、歯科医師のみ：38.6点）で、合格者は854名（医師：822名、歯科医師：32名）、合格率60.7%でした。合格率は2014年度の67.7%よりさらに低下し、残念ながら今回が過去最低でした。第1回の認定医試験の合格率91%と比較するとかなり低下していると言えます。受験者の年齢層が当時より若年化し、がん治療の経験年数が短いことも一因とは思われますが、一方で受験者の気構えや勉強の不足も否めない結果となっています。

2016年度の試験に関しては、組み合わせ問題は廃止し、**五肢択一問題(Aタイプ)あるいは五肢二択問題(Xタイプ)とする予定です。総論的問題については画像やグラフが添付された出題も計画しています。**

本機構では試験問題の質の向上を図るため様々な角度から検証を行ってきており、試験問題の品質管理の向上に努めています。受験者の皆様におかれましては、本認定医試験を今一度ご自身のがん治療に関する基盤的知識の点検の機会ととらえていただき奮ってのご参加を期待いたします。

## セミナー見学会開催 報告

広報・渉外委員会  
委員長 張替 秀郎



2015年11月7日、8日の教育セミナーの際に関連学会の先生方を対象にセミナー見学会を開催いたしました。セミナー見学会には日本緩和医療学会、日本血液学会、日本口腔外科学会、日本呼吸器学会、日本小児放射線学会、日本整形外科学会、日本泌尿器科学会、日本ペインクリニック学会、日本臨床細胞学会、日本乳癌学会、日本乳癌検診学会の計11学会にご参加いただきました。あわせて開催した懇談会では、参加された先生方から教育セ

ミナーに対して概ね良好なご評価をいただきましたが、今後セミナー講習に追加すべき内容について専門的見地からご助言がいくつかありました。いただいたご助言を生かして、さらに充実した教育セミナーにしていきたいと考えています。



### セミナー聴講

昨年より、医師・歯科医師に限らず、がん治療に関わる方を対象に、教育セミナーの聴講事業を開始いたしました。定員は50名ですので、お早目にお申し込みください。  
(詳細は、<http://www.jpct.jp/admission>)

申込期間	2016年8月3日(水)正午～8月25日(木) (予定)
対象者	メディカルスタッフ、医薬情報担当者(MR)、研究・開発担当者、医歯薬・医療系の大学生・大学院生・専門学校生、行政の担当者など

### 朝日がん大賞受賞



2015年9月4日 授賞式

15以上のがん患者団体と連携しながら設立した本機構は、がん医療のレベル向上を通じてがん患者の要望にも応える「がん治療認定医」制度を確立し、9年間で15,000名以上の第一線の医師育成を行ってまいりました。このたびその功績が評価され、朝日がん大賞が贈られました。

# 2016 教育セミナー・認定医試験概要

詳細はHPをご確認ください。

**開催日程** 教育セミナー：11月12日(土)、13日(日)  
認定医試験：11月13日(日)13:00～  
会場：幕張メッセ 国際展示場9ホール

**申込期間** 7月1日(金)～8月8日(月)  
本機構HPよりお申込のうえ、所定の金額をご入金ください。

**費用** 教育セミナーのみ 13,100 円  
認定医試験のみ 13,100 円  
セミナー・試験両方 23,100 円  
※ いずれもテキスト代・事務手数料・消費税込

！ テキストは、9月中旬に送付いたします。  
必ず事前に予習をしたうえで、受講・受験に臨んでください。

## ●教育セミナー 講義内容一覧

### I：がん治療に求められる基盤的知識

1. がんの生物学・分子生物学 (大木 理恵子・国立がん研究センター)
2. 腫瘍免疫学 (山上 裕機・和歌山県立医科大学)
3. がんの疫学・がん検診 (笹月 静・国立がん研究センター)
4. 臨床研究と統計学 (中村 健一・国立がん研究センター)
5. 病理学 (牛久 哲男・東京大学)
6. 画像診断学 (石守 崇好・京都大学)
7. 外科治療学概論 (渡邊 昌彦・北里大学)
8. 化学療法概論 (下方 智也・名古屋大学)
9. 分子標的療法概論 (矢野 聖二・金沢大学)
10. 放射線療法概論 (中村 和正・浜松医科大学)
11. 緩和医療特論 (木澤 義之・神戸大学)
12. 精神腫瘍学 (松島 英介・東京医科歯科大学)
13. がん救急 (畠川 芳彦・埼玉医科大学国際医療センター)
14. がん診療と倫理 (安藤 正志・愛知県がんセンター中央病院)

### II：各種悪性疾患の診断と治療の基本原則

1. 脳腫瘍 (橋本 直哉・京都府立医科大学)
2. 頭頸部がん (家根 旦有・近畿大学奈良病院)
3. 食道がん (加藤 健・国立がん研究センター中央病院)
4. 胃がん (小寺 泰弘・名古屋大学)
5. 大腸がん (石田 秀行・埼玉医科大学総合医療センター)
6. 肝がん (山下 竜也・金沢大学)
7. 胆道がん・膵がん (石原 慎・藤田保健衛生大学)
8. 肺がん (高橋 和久・順天堂大学)
9. 乳がん (遠山 竜也・名古屋市立大学)
10. 婦人科がん (板持 広明・岩手医科大学)
11. 骨・軟部腫瘍 (田中 和宏・大分大学)
12. 泌尿器科腫瘍 (篠原 信雄・北海道大学)
13. 皮膚がん (竹之内 辰也・新潟県立がんセンター)
14. 白血病 (門脇 則光・香川大学)
15. 悪性リンパ腫・多発性骨髄腫  
(新津 望・国際医療福祉大学三田病院)
16. 小児がん (家原 知子・京都府立医科大学)

2016年4月現在 (カッコ内 講師名)

## がん治療認定医 がん治療認定医 (歯科口腔外科) 2016年度 更新手続について

**対象者** 2011年度に認定された方  
(認定番号が111XXXXXとなっている方)で、  
資格更新を希望される方

**更新手続** 対象者には個別に郵送にて通知いたしますので、  
ホームページより**6月10日～8月31日**の間にお申込  
ください。  
(詳細は、[http://www.jbct.jp/sys\\_auth\\_renewal.html](http://www.jbct.jp/sys_auth_renewal.html))

(参考データ) がん治療認定医 更新率

(初回取得年度)	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
更新率	96.6%	94.1%	92.6%	91.1%

！ **更新WEBテストについて** 一旦、試験問題を印刷し、テキスト等  
で十分に自習したうえで、専用サイトより解答を行ってください。

## 認定研修施設 2016年度 更新手続・在籍報告について

### 更新手続

**対象施設** 2011年度に認定された施設で、更新を希望される施設

**更新手続** 1. 対象施設には施設長あてに個別に郵送にて  
「認定研修施設更新通知書」をお送りいたします。  
2. 上記1.に記載されているパスワードを用いて  
**5月18日～6月30日**の間にWEB登録を行い、  
書類一式を提出してください。  
(詳細は、[http://www.jbct.jp/sys\\_facilities\\_app16.html](http://www.jbct.jp/sys_facilities_app16.html))

### 在籍報告

**対象施設** 更新手続対象(上記)以外の施設

**提出方法** 対象施設には施設長あてに個別に郵送にて  
「認定研修施設在籍報告のお願い」をお送りいたします。  
**5月18日～6月30日**の間に在籍報告システムに  
ログインし、手続きを行ってください。  
(詳細は、[http://www.jbct.jp/sys\\_facilities\\_erreport.html](http://www.jbct.jp/sys_facilities_erreport.html))

！ 申請書類の提出あるいは在籍報告のWEB登録がない場合  
には、施設の認定を取り消される場合がありますのでご注  
意ください。

## 編集後記

JBCTニュース第3号をお届けいたします。現在、2人に1人ががんになり、  
3人に1人が、がんで亡くなる時代です。今後も高齢化社会が続くことか  
ら、がん患者の増加が予想されます。そのような社会背景において、がん  
に対する最新の知識を有し、診断・治療の的確にできるがんの専門医の  
育成はますます重要とされていますが、来年度から開始予定の新専門医  
制度では、がんに特化した専門医を育成する計画はありません。JBCTの  
「がん治療認定医」は基本領域の認定医・専門医等の資格を有し、同機構  
の定めた研修プログラムに準じたがん診療の経験と学術実績を有した  
医師・歯科医師が、2日間のセミナーと認定試験を受験し、認定される  
制度であり、がんに対して幅広い最新の知識を有する医師・歯科医師  
を育成し、がん医療の均てん化に貢献しています。今後もがん治療認  
定医を増やすべく、JBCTニュースを通じて教育セミナーや認定試験に  
関する情報を発信していきますので、よろしくお願ひします。

(広報・渉外委員会副委員長 馬場秀夫)